広報 京丹波 1
NO.135　2017.1.17 発行 TOWN KYOTAMBA

02　新年のあいさつ
04 特集 表彰ラッシュ
10　まちの動き
11　くらしのガイド
12　いきいき健康術
13　まちの元気人
14　FLASH まちの話題

町長が選んだ新年の一文字

惣

29年は「物」と「心」の調和を図っていきたいとの思いから二文字が組み合わさった「惣」の字を選びました。

物と心の調和

「足るを知る者は富む」（老子）
欲深くならずに分相応のところで満足することを知っている人は心が富んで豊かであるということ。

大寒のみぎり、皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。

私は新たな年を迎えた心境として、物と心の調和を図っていきたいと考えています。人は物が充足するだけでは幸せになれません。もちろん、「腹が減っては戦ができぬ」と言うように、貧困は心を追い詰め、健全な意欲の維持を困難にします。しかし、足りているのに欲し、不足を探すことは、心の貧しさを招きます。幸福で豊かな人生とは、自らの足るを知り、能力を周りの人のために役立てられることではないでしょうか。

福沢諭吉の言葉に「一身独立して一国独立す」とあります。心身が独立した人には、おのずと人格が備わると思います。独立した人同士が家庭を築き、家風が形成され、家風と家風が集まって土地柄（地域風土）となり、全国の土地柄によって醸し出されるのが、国家の品位（国柄）だと私は考えています。京丹波の土地柄を成す人材は、わが町の宝であり原動力です。

行政は、町の宝である町民の身体と財産を守り、そのうえで郷土の持つ地域力を形成し、信頼と安心、将来性のある環境で、家庭や地域が人材育成に取り組める町を目指さなくてはなりません。

そのために本年は、自然災害への対策を強化し、第一に町民の身体と財産を守ります。第二に、循環社会を目指し今年度策定する、第二次総合計画を軸にしたまちづくりを着実に推進するための条例を制定します。土地の恵みと有機的に連携する暮らしが生態系を健全に維持し、産業構造の再構築や災害に強い環境づくりにつながるものと考えます。第三に、幼児教育を充実・強化します。三世代同居が多かった時代、家庭や地域が子どもに多様な体験を与え、文化・価値観をはぐくみましたが、時代の変化と共に学びの機会も変化しました。子どもたちが、真に豊かな人生を拓く力をつけてくれることを願い、家庭や地域の学びと相乗効果をもたらす新たな学習環境の実現を目指します。

本年が本町にとってより良い年になりますよう気張ってまいりますことをお誓いし、あいさつとします。

京丹波町長
寺尾　豊爾

新年の一言：「初心勿忘（しょしんわするなかれ）」
初心を忘れず、気を引き締めていく思いを込めて。

新年の一言：惣（そう）。「すべて」「世の中や家の中を秩序ある状態にする」の意。
「物」と「心」でできた文字に、物心の調和を照らし見ました。

新年にあたり、京丹波町議会を代表いたしまして、一言、年頭のあいさつを申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月に発生した熊本地震は、多くの尊い人命を奪い、日本三大名城と言われる熊本城の石垣崩壊に象徴されるように甚大な被害をもたらしました。そうした反面、8月のリオ五輪での日本人選手のメダルラッシュは、我々に夢と希望と大きな感動を与えてくれた年でもありました。

こうした中、本町におきましては、一昨年の京都縦貫自動車道全線開通に時を合わせオープンした道の駅「京丹波　味夢の里」には、当初の想定を大幅に超える多くの来町者をお迎えしております。

今後につきましても、商工会や観光協会などの関係機関と連携、協力し、「味夢の里」をはじめ、町内4つの道の駅が本町の玄関口となって、通過の町から、訪れ、住みたくなる町へとさらに進化していくことを期待申し上げるものでございます。

本年は、町議会議員の任期最終年となります。一人ひとりの議員が当選時の初心を忘れることなく、地方自治の本旨であります住民の福祉の増進を図るため、有権者の皆様にいただいた二元代表制の一翼としての大切な役割とその重要な責務を認識し、合議制の議決機関として、町政運営の監視機能および自らの政策立案機能をより高めてまいる所存であります。

結びにあたり、本年が皆様にとって実り多い素晴らしい一年でありますよう、心からお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。

京丹波町議会議長
野口　久之

特集 表彰ラッシュ!!

長年の地域貢献や地域の課題解決に向けた
まちの皆さまの功績が認められ
平成28年の締めくくりは明るい話題に満ちました
受賞された皆さま、本当におめでとうございます
新たな年も各分野で日々活動されている皆さまの
努力や希望が、花開きますように

地域と学校の協働活動を推進

文部科学大臣表彰　竹野活性化委員会 × 竹野小学校

竹野活性化委員会設立総会で集合（平成25年6月）

読書推進活動「お話会」でサンタが学校訪問

オリジナル学習手帳

平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰が全国135団体、京都府内5団体に決定し、竹野活性化委員会と竹野小学校の協働による学校支援活動や地域活性化の取り組みが受賞。表彰式が12月8日、東京都内で行われました。

「子は宝」地域と共に歩む学校

平成25年6月の委員会発足以来、「とりあえずやろかいな」を合言葉に地域の課題に継続的に取り組んできた。児童の活躍が地域の励みと考え、活動の核を地域のシンボル竹野小に据えた。教室を地域住民の学びの場に開放するオープンスクールに始まり、住民が持つさまざまな技術や経験を生かした授業の実施や制作活動、地域総参加の竹野小運動会、郷土の自然や伝統を伝える学習ノートの贈呈など、知恵をしぼり取り組んだ。日下部進校長は、「行事を通して顔がつながり、地域が一つの大きな家族のよう。登下校時に農作業を休め手を振ってくださる方、児童の成長を褒める詩を贈ってくださる方もある。子どもたちが、保護者や教師だけでなく地域の皆さまの愛情をたっぷり受けて、のびのび育っている」と小規模校の利点を実感。活性化委の中西和之代表は受賞について、「地域の皆さまと喜びを共有し、経過を振り返りながら歩みを進めたい」。

戦没者遺族援護事業に長年の貢献

厚生労働大臣表彰　横山 均さん（84歳・口八田）

平成28年度援護事業功労者への厚生労働大臣表彰が決定し、京都府遺族会理事の横山均さんが受賞。表彰式が12月8日、東京都内で行われました。

戦争を起こさない社会へ

平成6年、京都府遺族会の丹波町地区副会長に就任。同会長を経て南丹船井支部長、府遺族会評議員および理事を歴任。通算22年にわたり、戦没者遺族の援護と福祉の向上に携わってきた。

「一家の大黒柱を失った母が、辛苦しながらも集落の皆さまに援助いただき、仕事や育児に専念していた姿を思い、皆さまに恩返しできないか」との思いと二度と戦争を起こさない社会づくりが任務と捉え、活動してきた。組織の中核であった戦没者遺族が高齢になり、今後の活動に諸問題はあるが、「私たちの体験を後世に伝え、同じ苦しみを味わうことのないよう世界平和の実現のために努力しなくてはならない」と戦災を風化させず、遺族支援事業などの改善を求め、国や府へ要望活動を続ける。また、遺族会活動の継続のため、戦没者の子孫にも活動への参加を呼びかける。

受賞について、「感激でいっぱい。会員の皆さまの力強い支援により任務を遂行できている。今後とも遺族の援護諸活動に頑張る覚悟」と気を引き締める。

特集 表彰ラッシュ

農地を守り次ぐ技術と心

平成28年度京都府農林水産業功労者表彰に5人2団体、若手農林漁業者表彰に20人5組が決定。表彰式は昨年11月26日、京都市内で開催された平成28年度京都府農林水産フェスティバルで行われました。本町の各受賞者を紹介します。

優れた生産技術で地域特産物の開発に貢献

農林水産業功労者表彰　井上（いのうえ）　益孝（まさたか）さん（農業67歳・富田）

京都府オリジナル酒造用掛米「京の輝き」や地元の長老酒造と地産地消の酒造りを目指した酒米「五百万石」を生産。地域特産物の開発に貢献するとともに、黒大豆の採種農家として優れた生産技術を維持し、本町特産物の生産基盤を支えている。

平成21年、定年退職を契機に就農。初めての黒大豆栽培で種豆の発芽に失敗し、急きょ手配してもらった苗が種子用だった。「運良く良い豆がたくさんとれたが、全体ではその年の種豆の収量が不足したため、私が栽培していた種子用豆が採用された。それ以来、無我夢中で一生懸命、作ってきた」と幸運に感謝する。日の出と競うようにほ場へ出る姿は、周囲も認める努力家。種子用豆に食用豆の倍以上の手間をかけながら、水稲、酒米などのローテーションを組み、特産地をけん引する。「達成感を支えに府内の生産者に迷惑をかけまいと取り組んでいる」。

受賞について、「恐縮している。皆と助け合い、先祖から受け継いだ農地を守っていきたい」。

ほれ込んだ茶の生き残りをかけて

農林水産業功労者表彰　大朴協同生産組合（茶業・大朴）

地域の茶生産者により昭和41年に設立。以来、茶園管理や加工体制を維持し、自家製品の販売や加工作業受託を行う。昼夜の寒暖差が生み出す在来種独特の渋みが好まれ、一番茶の人気は定着しているが、二番茶の販売量は減少傾向にあった。平成26年秋に新商品の開発に着手し翌年8月、無添加の紅茶の商品化に成功。積極的な販売活動を行っている。

谷正昭（たにまさあき）組合長（写真）は、「紅茶製造の経験者がなく試行錯誤だった。朝に作業を始めて午後11時まで　かかりきりになり、工場に食事を差し入れてもらった」と振り返る。自然発酵によるため、湿度や気温で発酵の度合いが変わり、品質の維持などの研究は続く。干したゆず皮を混ぜたゆず入り紅茶も試作している。

茶業は全国で多種多様な商品による競争が厳しい。「品質の向上と商品開発に積極的に取り組み、大手企業にできない工夫をして、何としてでも生き残りたい。お茶にほれ込んでいる」と先祖代々受け継いできた茶園を守り、技術継承を目指す。

自給飼料による循環型の農業経営

若手農林漁業者表彰　辻（つじ）　拓也（たくや）さん（畜産業28歳・上大久保）

自給飼料による肥育牛の子牛生産に取り組む。地域の耕作放棄地を引き受け、水稲やWCS（飼料用稲）を生産し、家畜ふん尿を堆肥利用するなど循環型の農業経営を展開。若手肥育農家のリーダーとして期待されている。

鳥取県立農業大学校を卒業し就業。父と二人三脚で切り盛りする。出産を控えた親牛の健康管理を第一に、変化を見逃さぬよう早朝・深夜を問わず観察し、細やかな手入れをする。枝肉として成績の良い品種の情報を集め、品質の向上を研究。基本に忠実に取り組んでいる。「牛は仕事のパートナー。お互いに生きていくために持ちつ持たれつの関係」。

畜産業の傍ら、米の契約栽培や原木シイタケなどの生産にも励む。「入荷を待ってくれているお客さまの声が張り合いになる」。今後について、「良品質で安定生産を続けることが顧客との信頼関係につながる。地道にコツコツ取り組み、頭数を増やして放牧などで地域の農地を守りたい」。

農地・水・環境保全向上対策協議会が優良組織を表彰

京都府農地・水・環境保全向上対策協議会は、平成28年度優良組織として二部門で計8組織を選定。小畑環境保全向上対策協議会（農家数35戸）が地域保全・地域活性化部門で選ばれ、11月26日に表彰されました。

京都府農業協同組合中央会長賞
小畑環境保全向上対策協議会（小畑）

地域ぐるみで環境保全
生産基盤を維持

昭和54年のほ場整備以来、農業用施設が経年劣化し、営農に支障が出たため、平成19年から制度を活用している。梅原眞代表は、「農地や農業用施設の保全活動が、農業者だけでなく区全体の課題として共有できるよう、区内の各団体代表で幹事会をつくり、活動計画を立てた」と振り返る。消防水利を兼ねた水路は消防団員が草刈りを行うなど分担している。活動報告や啓発にも努め、全世帯の約半数となる非農家と協力し、区全体で取り組む機運を醸成している。

四十数年前、コスト軽減などを目的に水稲種子を自家採取する育苗組合を設立した。これが共同体制の地盤となり、集団転作やさまざまな共同作業の継続につながっている。受賞について、「時代の変化に合わせて共同化し、地域の財産を皆で守ってきた。次の世代がより良い仕組みに変え、農業や農地を維持してくれることを期待する」。

農地・水保全管理支払い交付金制度とは

農業者と非農業者が協力し、地域ぐるみで農地や農業用施設などの保全活動を行い、環境学習や農村環境の維持を図る制度。

実施する組織に対して、活動経費が交付される。

地元野菜の無添加調味オイル「京都やさいおいる」

京都府が6次産業化を推進するため企画した初の「京の食6次産業化コンテスト」で、丹波食彩の工房を拠点に活動するNPO法人京都女性起業家協議会（篠原美佐子代表理事）の商品が最優秀に輝き、11月26日に表彰されました。

「京の食６次産業化コンテスト」最優秀
ＮＰＯ法人京都女性起業家協議会（高岡）

左から篠原美佐子代表、関ナレさん、森典子さん

地元産の九条ネギ、トウガラシ、甘とう、バジルを使った４種のオイル

農家の課題解決を目指して

入賞商品は、米油に九条ネギや万願寺トウガラシなどで風味付けした無添加の調味オイル。「海外にも販路開拓するため、国産・京都産の材料で作り、色の美しさや味の良さにこだわった」。産地により色の出方が違うためレシピを使い分ける。また、「いろいろな料理にかけるだけで味の変化が楽しめる」と手軽さもPRポイントだ。

同協議会は女性の起業支援を目的に平成23年発足。女性農家の支援を契機に、府内農家と連携して農家の課題解決に乗り出した。農業ビジネスを確立して就農者を増やし、後継者問題の解決や活性化を目指す。昨年9月から本町を拠点とし、加工用途に合う野菜を自ら生産し、市場の需要に応じた独自商品を研究してきた。

今後について、「製造量を増やし販路を広げるため、地元生産者と協力して取り組みたい。これまでの積み重ねが意味あるものになるよう目的達成に向かいたい」。

平成28年度京都新聞社大賞　教育社会賞
和知人形浄瑠璃会（大迫）

平成28年度京都新聞大賞は、文化学術、教育社会、スポーツ、福祉の各分野で功績のあった8人・5団体が受賞。和知人形浄瑠璃会が教育社会賞に選ばれ、昨年11月25日に京都新聞文化ホールで贈呈されました。

文化の継承を教育に結びつけ

町内外での公演の傍ら、小中学校の総合授業で指導している。文化継承という大きな課題を教育に結び付け、意欲的に取り組んだことが高く評価された。

和知人形浄瑠璃は、江戸時代末期の大迫村で農閑期の楽しみとして始まった。一人で大ぶりの人形を操る「一人遣い」を特徴とする。遣い手として48年目になる大田喜好会長は「この十数年間で才能を秘めた生徒もいた。子どもたちが郷土の文化に触れ、将来の担い手になってくれたら」と期待する。また、「指導を通じた世代間交流は生徒の社会性を養い、私たちにも良い刺激になっている」と側面的な効果もある。生徒が経験を重ね研さんすることを願い、来年度は先進地研修などを予定している。受賞について、「周囲の皆さまの支えにより、今日まで続けてこられた。賞に恥じない活動を展開していきたい」。

受賞された皆さまへ　お祝いの言葉

京丹波町　寺尾豊爾町長

受賞された皆さま、誠におめでとうございます。長年ご尽力された方から若い志を立てて励まれている方まで、幅広い分野で受賞され感激しています。本町の原動力となる人材の豊かさの表れであり、皆さまのさらなるご活躍を祈念いたします。

京丹波町教育委員会　松本和久教育長

数々の栄誉に輝かれた皆さま、心からお祝いを申し上げます。子どもたちの学びや成長を支えていただいた皆さまの受賞は、私たちの誇りでもあります。これらは、本町ならではの人づくりやまちづくりへの評価でもあり、大きな励ましをいただきました。

京丹波町新庁舎建設基本計画審議会（湊嘉秀会長）は12月12日、京丹波町新庁舎基本計画案の答申を寺尾豊爾京丹波町長に提出しました。

新たなまちづくりの拠点を描く 京丹波町新庁舎基本計画案まとまる

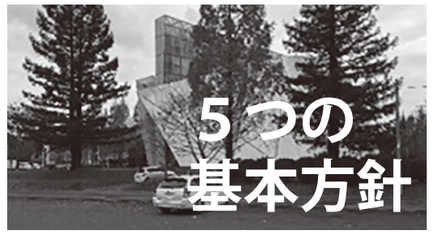
新庁舎の基本理念は、「町民の共有財産として、愛され、集い、そして安全、安心を守る要となる『町民のための新庁舎』です。

計画地は蒲生のふれあい広場 平成32年度末の完成目指す

位置は、敷地の規模、アクセス性、災害への対応力や将来の拡張性に優れた蒲生の「ふれあい広場」を計画地とします。

規模は、現庁舎に配置している部署に加え、教育委員会、子育て支援課、保健福祉課、水道課を集約し、ワンストップサービスを図ります。敷地面積は、庁舎、車庫・倉庫、駐車スペースなどを含め計1万8千㎡程度と試算。この試算規模を参考値とし、設計段階で最適化を図ります。また、森林資源の活用を進めるまちにふさわしく、地元産材による木造・木質化に工夫します。

事業費は新庁舎本体工事費が約23億円。付属棟や外構整備、既設建物の解体撤去などを含めた全体事業費は約34億2千万円と試算。事業化する各段階で適切な照査を行い、事業費の削減に努めることとしています。主な財源は合併特例債で、起債期限である平成32年度末の完成を目指します。



まちの防災拠点として

地域防災を支援し、災害発生時にはただちに対策に着手できる性能を有する庁舎。

まちづくりの拠点として

効率的な住民サービスを提供し、利便性が高い庁舎。暮らしを守る庁舎として永く愛され、まちの象徴となる庁舎。

人にやさしく利用しやすい

さまざまな来庁者にとって使いやすく分かりやすい庁舎。町民が気軽に交流でき、町民と行政の協働に利用しやすい庁舎。地域づくり、人づくり、人のつながりを支援する開かれた庁舎。

機能的で合理的

来庁者の動線を考慮し、プライバシーに配慮した庁舎。執務効率に優れた庁舎。

環境に優しい

豊かな森林資源の積極的な活用と地域特性を生かした環境配慮型の庁舎。

道づくりをまちづくりに 町内の道の駅連絡協議会発足

町内四つの道の駅による連絡協議会が発足し、構成団体による設立総会を12月9日、道の駅「京丹波　味夢の里」で行いました。各駅の連携強化と駅相互の発展による町全体の観光振興が狙い。構成団体は、各駅の運営団体と賛助会員として朝市などの出荷者5団体で、町商工観光課に事務局を置きます。

総会では、設立趣意書や会則、役員の選任、予算案を諮り、いずれも賛成多数で承認。28年度は、道の駅に特化したパンフレット作成に係る調査・研究や道の駅記念切符の発行など、29年度の本格活動に向けて調えます。沖哲司会長は、「町内の他の集客施設や町ロケーションオフィス（仮称）とも連携を深め、個々の魅力を発信しながら、町全体の集客力を高めたい」と意気込みます。

20歳になるとトラブル増加?! 〝断る勇気〟を持ちましょう

20歳未満を「未成年者」、20歳になれば「成人」と呼びます。未成年者は成人と比べて知識や経験が不足し、判断能力も未熟です。そのため民法では、未成年者が親権者の同意がない契約をした場合、原則取り消すことができます。しかし、成人になるとそのような保護がなくなり、社会経験が乏しい若者を狙う悪質業者による消費者トラブルが発生しています。

相談事例

■友人からもうかる話があると言われ、仮想通貨の投資のような契約をしたが解約したい。

■SNSで知り合った女性に連れて行かれた事務所で自己啓発セミナーの契約を勧められ、消費者金融（＊）で借金し会費を支払うよう言われた。

■無料のエステ体験をしたが、「コースにすれば効果がある、今ならキャンペーン価格」と勧められ長期契約をしてしまった。

＊消費者金融…個人に対する小口融資。
＊ローン…一般的に目的が限定された借り入れ。

アドバイス

□SNSがトラブルのきっかけにもなっており、数回やり取りをしただけで親しい友人と思い込んでしまうようです。「絶対もうかる」という言葉をうのみにせず、安易に契約しないようにしましょう。

□「お金がない」と断っても、「消費者金融やローン（＊）がある」と高額な消費者金融との長期間契約や、ローン契約を勧められることがあります。月々の支払い金額は少なくても、長期間の支払いになると大きな負担になります。消費者金融やローンは借金です。複数のローンなどの契約を抱え込むと、やがて多重債務にもつながってしまいます。

□友人・知人からの紹介であっても、その場ですぐに契約せず、不要な場合は「契約する意思がない」ときっぱり断りましょう。

【京丹波町消費生活相談窓口】　消費生活に関してお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。
電話0771-82-3803　（相談日）毎週水・木曜日

消費生活情報を学習し、トラブル防止を。

町消費者グループでは、消費生活研修や啓発活動を行い、地域の皆さまの安心・安全な消費生活を支援しています。

昨年10月の研修会では、京丹後市消費生活学習グループが被害事例を寸劇で紹介し、参加者は被害防止の秘訣を学習しました。サロンや地域の集まりへ相談員が出向く出前講座もありますので、ぜひ最新の消費生活情報を取り入れ、暮らしにお役立てください。

開運商法の事例を寸劇で紹介する京丹後市消費生活学習グループ

Dr's Message

いきいき健康術 第113回

町立病院・診療所の医師や専門職員が
健康情報をお届けします。

『予防医学という考え方』

京丹波町病院内科　茎田（くきた）　祐司（ゆうじ）　医師
木曜日と金曜日の外来を担当

予防医学を実践し、元気に長生きできる身体をつくりましょう

皆さん、「予防医学」という言葉をご存じでしょうか？

これまでの医療は病気を治すことに主眼が置かれてきました。しかし最近では、いかに病気にならない身体をつくるかということに注目が集まっています。これが予防医学の考え方です。医学の進歩により病気の治療成績は向上してきていますが、そもそも病気にならないに越したことはないですよね。仮に病気になったとしても早期に発見できれば治療もより簡単になります。

予防医学自体は難しい学問の話になってしまいますが、今回は実践していただける予防医学の考え方をお話します。

京丹波町病院
電話 0771－86－0220

1 毎年、健康診断を受けましょう

定期的に健康診断を受けることで病気の早期発見や予防につながります。がん検診や人間ドックも非常に有効です。定期的に病院に受診されている方も健診は受けるようにしてください。

2 予防接種を受けましょう

65歳以上の方は肺炎球菌ワクチンの接種を受けることで肺炎球菌による肺炎を予防することができます（65、70、75、80歳など5の倍数の年齢の方が対象です）。また、毎年11～12月にはインフルエンザウイルスの予防接種も受けるようにしてください。

3 生活習慣を見直しましょう

食べ過ぎたり、お酒を飲み過ぎたりしていませんか。脂っぽいものや塩分の多いものをたくさん食べていませんか。タバコを吸っていませんか。定期的に体を動かしていますか。普段の生活を見直すだけでも、生活習慣病、心疾患、脳血管障害、肺疾患、肝臓病、腎疾患などの多くの病気を予防することができます。

町立医療施設の敷地内は全面禁煙です。ご理解とご協力をお願いします。

kyotamba | まちの元気人

明るい未来を支度します。

質美の自然と人が作り出す風土に引かれ、美山町から移り住んで11年。昨年11月1日付けで質美地域の「里の公共員」に着任した。里の公共員は、過疎地域に住みながら地域の維持・発展をサポートする。京都府の公募に対し、「過疎・高齢化から、暮らしや風土を守りたい」と一念発起した。

友枝（ともえだ）　良平（りょうへい）さん（58歳・質美）

同地域は昨年10月、京都府特別移住促進地域の指定を受けており、移住対策も任務の一つと受け止めるが、「本当に移住者を増やしたいのか、地域にどんなメリットがあるのか、そもそもなぜ過疎が進んだのか地元でよく話し合い、納得のうえで取り組む方が良い」と慎重だ。自身の経験も踏まえ、「地域の付き合いで起きる問題の半分は、自分にもある。お互いの考えを押し付けあっていてはダメ」。活動のモットーは、「焦らないこと、人の話をよく聞くこと、想像力を働かせること」。

活動は、地域振興会と連携して進める。まずは、先進地視察の企画や全国の過疎地域の情報収集、昨年11月に始まった地域懇談会への参加。高齢者の見守り対策や交通弱者移送サービスへの提案も求められている。「大きな課題なので、地域振興会や行政と協力して取り組み、任期3年の内に何らかの道筋をつけたい」。

過疎の進行は、大量生産、大量消費、大量破壊を続けてきた社会の限界を現す問題の一つと捉え、「新たな社会のあり方を考えるとき、水資源や森林資源が豊かな中山間地域は、資源が循環する持続可能な社会の可能性を秘めていると思う。他所との競争ではなく、各地域がその多様性を発揮しながら全体として豊かになれる方法を考えたい。地域に余力がある内に動き出せば、良い方向へ向かえるのではないか」と望みを持つ。自ら名づけた〝支度人〟という肩書に込めた思いは、「自分が表に出るのではなく、地域の皆さまの思いを聞き、地域おこしの支度をさせていただきたい」。

冷たい雨はねのけタスキつなぐ 第12回町駅伝競走大会

第12回町駅伝競走大会は12月11日、和田のふれあい広場を発着点に開催。気軽に参加できる「一般宣言タイムの部」を新設し、計8部門に47チームが出場。選手は熱い声援を背にタスキをつなぎました。大会新記録は、団体の中学男子「瑞穂弾丸ランナーズ」、中学女子「w-girls」、個人で谷岡快莉さん（瑞穂中3年）、梅原三和さん（和知中2年）が記録しました。

タスキを受け取り次々にスタートする選手ら

師走の空に健脚を響かせた

伸びやかな風景に足取り軽く 河岸段丘でノルディックウォーキング

河岸段丘の起伏に富んだコースを楽しむノルディックウォーキング教室が12月4日、和知川カヌー艇庫を発着点に開催され、参加者は由良川沿いに坂原、安栖里、中の田園風景をめぐる約5kmを歩きました。高台から向こう岸を眺望するのびやかな風景を眺めながら、「普段、歩くことのない道」と新鮮な気持ちを味わいました。

選んだカードに問いの答えを記入した

中学校教諭が出前授業
初の小中連携事業の試み

和知小学校で11月30日と12月6日、町内初の小中連携出前授業が行われました。児童数の減少を見通し、中学校生活への円滑な接続を図る試みとして、小中学校が一校ずつある和知地区で実施。指導内容の専門性を生かして、5学年が英語科、6学年が美術科を学びました。梅垣菜々代英語教諭は、「小学校では話す・聞くが中心なので、今回は書くことに取り組んだ。意欲的に学んでいた」と好感触。平成30年度には英語科と道徳科が追加されることも踏まえ、今後の定期的な実施を検討します。

森の恵み楽しんで
第1回府立林業大学校祭

開校5年目を迎える京都府立林業大学校が12月3日・4日、初の学校祭を開催。学生生活を楽しみ、学年間の交流を深めるとともに学校を地域に開放する機会にと、学生が企画しました。

3日は、個人が収集した林地残材を商工会商品券と交換する「木の駅プロジェクト」を実施。翌日は、記念講演や木製アスレチック、木工体験などが楽しめ、里山の幸を生かした模擬店が家族連れなどでにぎわいました。

大きなたき火の周りで交流深まる

義援金などの受付状況
（平成28年12月31日現在）

東日本大震災義援金	9,653,306円
熊本地震義援金	1,752,408円
福島県双葉町復興支援募金	7,044,771円

東日本大震災義援金受付期間終了のお知らせ

東日本大震災義援金の受付は、日本赤十字社の受付期間終了に伴い、平成29年2月28日をもちまして、終了させていただきます。多くの皆様のご支援とご協力、誠にありがとうございました。

わたしたちの町

人　口	14,901	（−17）
男	7,061	（−5）
女	7,840	（−12）
世帯数	6,361	（−1）

1月1日現在／（　）は前月比

ご寄付のお礼

大相撲京都場所実行委員会 四方八洲男本部長 …１０万円

〔寄付理由〕
CATV の協力により

＊敬称略

ふるさと応援寄付金（ふるさと納税）のお礼

新田	千賀子	１万円
平木	祐子	１万円
古高	佑季	１万円
有田	一寿	１万円
野田	令	２万円
吉田	剛	１万円
佐竹	壽夫	５万円
吉田	範敏	２万円
岡崎	史子	２万円
石田	榮仁郎	１万円
江口	智	１万円
今村	雅夫	１万円
中島	明美	３万円
坂本	泰陳	２万円
片山	山治	１０万円

＊敬称略＊掲載内容は寄付者の申し出にもとづく

移住希望者へ地域を紹介
田舎子育てを知るランチ会

農村への移住を考える人へ地域を知ってもらう「田舎子育てを知るランチ会」が12月10日、若竹センターで開かれました。本町・南丹市・亀岡市では、京都丹波地域として移住セミナーや移住相談会などを行っています。

この日は、京都市などに住む子育て世代が参加し、水戸の西原悠紀さん夫妻が、移住の経過や地域の慣習など体験談を披露。地元野菜のみを使った料理を味わいながら、「地域の付き合いとはどのようなものか」「子育ての面で田舎で良かったこと」などが話題になりました。食後は、竹野小学校を見学しました。

移住を考えたきっかけなどを話し合う

五輪日本代表の夢を達成
町人権講演会で体験談

人権週間の啓発活動の一環として町人権講演会を12月3日、山村開発センターみずほで開催。北京オリンピックのシンクロ競技日本代表の石黒由美子さんが、自身の夢を達成してきた体験を語りました。小学2年のとき交通事故にあいましたが、後遺症などを家族の支えや独自のリハビリで克服。「夢ノート」にかなえたい事柄を記し、全力を尽くしました。「夢は自分にとって最高の形でかなった。皆さんもあきらめないでほしい」と力強く励ましました。

講演に先立ち、町いじめ防止作文コンクール表彰式が行われ、最優秀の小野そらさん（下山小6年）と中咲月さん（蒲生野中1年）が発表しました。

母が水着を手作りして練習を支えてくれた

町内産のスギでツリーなど
クリスマスアート教室

身近な自然素材を使った「クリスマスアート教室」が12月10日、わち山野草の森で開かれ、町内の親子連れなどが参加。北海道下川町から届いた約4メートルのトドマツを飾り、町内産の杉枝でミニツリーやリース作りを楽しみました。

教室は、森林に親しむ木育活動の一つとして、季節ごとに開催しています。今回は京都府立林業大学校の志方隆司教諭が、林業先進国ドイツのクリスマス行事や国内の針葉樹について紹介。作業後は、華やかに飾られたトドマツを眺めながらケーキを味わい、ひと足早くクリスマス気分を味わいました。

オリジナルのミニツリー作り

冬の庭を鮮やかに彩るハボタン

花言葉は「祝福」「利益」「慈愛」「愛を包む」「物事に動じない」

新しい年が愛と平和と幸福で満たされますように

発行／京丹波町　〒622-0292京都府船井郡京丹波町蒲生八ツ谷62番地6　TEL.（0771）82-0200（代表）・（0771）82-3801（直通）
企画・編集／企画政策課［ホームページアドレス］http://www.town.kyotamba.kyoto.jp　［電子メール］kikaku30@town.kyotamba.kyoto.jp